

● 共通教育を履修して ●

共通教育とは

教育地域科学部 社会系教育コース2年 岩本 磨薫

私は共通教育とは、知識の交流の場だと思う。

共通教育では、自分たちで選んだ講義を取るほかに、希望している講義に入れず抽選で決まることもしばしばある。また単位の関係で、それまで触れたことのないような分野の講義を取る必要もある。私も、二年間共通教育を履修してきたが、どれ一つ同じ分野の講義が重なったことはない。つまり、一つ一つの共通教育の講義が、それぞれの学問分野に散らばり、広い範囲の学習をしてきたといえる。この共通教育の大きな特徴である、広い学習は専門分野の学習ばかりしていたのでは身につみにくい。専門分野の学習は、より深く学ぼうとすればするほど学問分野は狭まっていくからである。そのため共通教育は、私たちに多くの視点を持たせてくれる機会といえる。

しかし、共通教育では知識理解が浅いのではないか・興味のない分野では学生が真剣に取り組んでいないのではないかという指摘もある。ただ私は、講義をすべて理解する必要

はないのではないかなと思う。単にそこから興味を持つ・何か感じる・知らなかったことをほんの少し知る、ただそのようなことができたなら、共通教育はその役割を大いに果たしたと言えるのではないだろうか。そして、こうした小さな知識や関心が、今まであった知識とリンクして、よりそれぞれの専門分野を柔軟に推し進めていくきっかけになっていくのではないだろうかなと思う。一方で、私たち学生もその時点では興味のない・理解できない話を聞く場であるかもしれないが、後々大きな影響をうけることも少なくないことを忘れてはいけない。共通教育とは、自分が興味のある・ないに関係なくすべての講義に、ただ触れ合うことで意味が生まれるのである。

そのため、大学時代にこうした広い学問の社交性のある場である共通教育に触れ合うことは、大変意義のあることであると考えている。私たちは、共通教育をもっと知識や関心の入り口・自分の知識との交流の場だと思い気軽に講義を受けてもいいのではないかと考える。